

実務的科目一覧
黄色で塗られている科目は、実務的教員による実務的教育を行う科目となる。

スポーツ柔整科 2021・2022・2023年度入学 (JT21S・JT22S・JT23S)

分野	教育内容	必修 選択	授 業 科 目	区分	単位 数	科目 時間	1年次	2年次	3年次			
							前	後	前	後	前	後
基礎	科学的思考の基盤 人間と生活	必修	国語表現	演習	2	32	32					
		必修	パソコン	演習	2	32		32				
		必修	生物学Ⅰ	講義	2	32	32					
		必修	生物学Ⅱ	講義	2	32		32				
		必修	栄養学Ⅰ	講義	2	32	32					
		必修	栄養学Ⅱ	講義	2	32		32				
		必修	体力学	講義	2	32	32					
専門基礎	人体の構造と機能	必修	解剖学Ⅰ（運動器系）	講義	4	64	32	32				
		必修	解剖学Ⅱ	講義	4	64			32	32		
		必修	生理学Ⅰ	講義	2	64	32	32				
		必修	生理学Ⅱ	講義	2	64			32	32		
		必修	高齢者・競技者の生理学的特徴・変化	講義	2	32				32		
		必修	運動学	講義	2	64			32	32		
	疾病と傷害	必修	病理学	講義	2	64			32	32		
		必修	一般臨床医学Ⅰ	講義	2	64			32	32		
		必修	一般臨床医学Ⅱ	講義	1	32					32	
		必修	外科学概論	講義	2	32			32			
		必修	整形外科科学	講義	2	32			32			
		必修	リハビリテーション医学	講義	2	64			32	32		
	柔道整復術の適応	必修	柔道整復術の適応	講義	2	32		32				
	保健医療福祉と柔道整復の理 念	必修	職業倫理	講義	1	16	16					
		必修	衛生学・公衆衛生学	講義	2	64	32	32				
		必修	関係法規	講義	1	32	32					
		必修	柔道Ⅰ	実技	1	32		32				
		必修	柔道Ⅱ	実技	1	32			32			
		必修	柔道Ⅲ	実技	1	32				32		
		必修	柔道Ⅳ	実技	1	32					32	
	社会保障制度	必修	社会保障制度	講義	1	16	16					
専門	基礎柔道整復学	必修	基礎柔道整復学Ⅰ	講義	1	32		32				
		必修	基礎柔道整復学Ⅱ	講義	2	64	32	32				
		必修	基礎柔道整復学Ⅲ	講義	2	64			32	32		
		必修	基礎柔道整復学Ⅳ	講義	1	32				32		
		必修	基礎柔道整復学Ⅴ	講義	2	64					32	32
		必修	基礎柔道整復学Ⅵ	講義	2	64					32	32
		必修	基礎柔道整復学Ⅶ	講義	2	64					32	32
		必修	基礎柔道整復学Ⅷ（外傷の保存療法）	講義	1	16			16			
	臨床柔道整復学	必修	臨床柔道整復学Ⅰ	講義	2	64	32	32				
		必修	臨床柔道整復学Ⅱ	講義	2	64	32	32				
		必修	臨床柔道整復学Ⅲ	講義	2	64			32	32		
		必修	臨床柔道整復学Ⅳ	講義	2	64			32	32		
		必修	臨床柔道整復学Ⅴ	講義	2	64					32	32
		必修	臨床柔道整復学Ⅵ	講義	2	64					32	32
		必修	臨床柔道整復学Ⅶ	講義	2	64					32	32
		必修	臨床柔道整復学Ⅷ（柔道整復術の適応）	講義	2	32						32
		必修	臨床柔道整復学Ⅸ（物理療法の取り扱い）	講義	1	16			16			
	柔道整復実技	必修	柔道整復実技Ⅰ	実技	2	64	32	32				
		必修	柔道整復実技Ⅱ	実技	2	64			32	32		
		必修	柔道整復実技Ⅲ	実技	2	64					32	32
		必修	柔道整復実技Ⅳ	実技	2	64					32	32
		必修	柔道整復実技Ⅴ	実技	2	64					32	32
		必修	柔道整復実技Ⅵ	実技	2	64					32	32
		必修	柔道整復実技Ⅶ	実技	2	64					32	32
		必修	柔道整復実技Ⅷ	実技	2	64					32	32
		必修	柔道整復実技Ⅸ（高齢者・競技者の外傷予防）	実技	2	32						32
	臨床実習	必修	臨床実習Ⅰ	実習	1	45		45				
		必修	臨床実習Ⅱ	実習	1	45			45			
		必修	臨床実習Ⅲ	実習	1	45				45		
		必修	臨床実習Ⅳ	実習	1	45						45
					104	2772	877		954		941	
実務的授業合計					55	1684	397		410		877	

シラバス（授業計画書）

科目名（ 職業倫理 ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 1年

1 授業の内容

医療職である柔道整復師の職業倫理を学び、医療従事者として実践力を備えた人材へと成長を促す。担当教員の実務経験を基に実務に必要な技術・知識の解説も実施する。

2 到達目標

授業を通じて医療職の職業倫理を身につける

3 授業の方法

P C プロジェクタを利用したパワーポイントによる講義

4 成績評価方法・基準

レポート 100%

5 評価の際の特記事項

特になし

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業で配付している資料に関する復習をしてくること

7 使用教材、教具

全国柔道整復学校協会監修「社会保障制度と柔道整復師の職業倫理」医歯薬出版
および配布資料（授業にて配布）

8 学生へのメッセージ

教員の実体験も交えて臨床に役に立つ知識を伝えたいと思います
柔道整復師の職業倫理についてしっかり学んでいきましょう

9 教員氏名（ 米田 伸一 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 ）

実務経験の詳細（ 整骨院にて施術者として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名（ 職業倫理 ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	基本的責務、患者の同意について
3	診療録の記載と保存について
4	個人情報、応召義務について
5	セカンドオピニオン、広告の制限について
6	医師相互の関係、医師間の診療録の提供について
7	他の医療関係職との関連～医療事故の報告について
8	公的機関への通報～国際活動への参加について

シラバス（授業計画書）

科目名（ 関係法規 ）

学科名 スポーツ柔整科
学年 1 年

- 1 授業の内容
プリントにて要点を押さえながら、反復し知識・記憶・理解力を習得する。
- 2 到達目標
国家試験合格も視野に入れた、自己学習に活かせるように、授業に集中してください
- 3 授業の方法
教科書・配布資料を利用した講義
- 4 成績評価方法・基準
定期試験 100%
- 5 評価の際の特記事項
特になし
- 6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容
授業進度計画に沿った教科書を復習し、自己の弱点を克服して下さい
- 7 使用教材，教具
全国柔道整復学校協会監修「関係法規」医歯薬出版
- 8 学生へのメッセージ
日々学習にとり向き国家試験合格を目指しましょう
- 9 教員氏名（ 米田 伸一 ）
所 属（ ころ医療福祉専門学校佐世保校 ）
実務経験の詳細（ 整骨院にて施術者として勤務経験あり ）
- 10 特記事項
実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名（ 関係法規 ）

回数	授業内容
1	序論（法の意義・体系・柔道整復に関する法規・患者の権利）
2	柔道整復師法とその関連内容（総則・免許・国家試験・業務・施術所）
3	柔道整復師法とその関連内容（雑則・罰則・指定試験期間・付則）
4	医療従事者の資格法（医師法・歯科医師法）
5	医療従事者の資格法（看護師・診療検査・臨床検査技師等に関する法律）
6	医療従事者の資格法（理学作業療法士・その他に関する法について）
7	医療法
8	医療法施行令
9	社会福祉関連法規（社会福祉法・生活保護法）
10	社会福祉関連法規（児童福祉法・身体障害者福祉法・その他に関する法）
11	社会保険関連法規（健康保険・国民保険・高齢者保健法）
12	社会保険関連法規（介護保険・各共済組合保険・その他に関する法）
13	柔道整復師法・施行令・施行規則
14	柔道整復師法省令・日本国憲法
15	総復習
16	試験返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 社会保障制度 ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 1年

1 授業の内容

社会保障制度の概要、介護保険の種類や基準について学び、担当教員の実務経験を基にした指導を行い、実践力を備えた人材へと成長を促す

2 到達目標

社会保障制度、介護保険の内容を把握する

3 授業の方法

P C プロジェクタを利用したパワーポイントによる講義

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業で配付している資料に関する復習をしてくること

7 使用教材、教具

全国柔道整復学校協会監修「社会保障制度と柔道整復師の職業倫理」医歯薬出版
および配布資料（授業にて配布）

8 学生へのメッセージ

資格取得後も必要な知識です。一緒に頑張りましょう

9 教員氏名（ 米田伸一 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 ）

実務経験の詳細（ 整骨院にて施術者として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名（ 社会保障制度 ）

回数	授業内容
1	医療保険の概要
2	医療保険の体系
3	国民健康保険と健康保険
4	介護保険の概要、保険者と被保険者
5	介護保険の区分支給限度額、保険料の算定
6	訪問介護、訪問リハビリ、デイサービス、デイケアの違いと内容
7	介護療養型施設、地域密着型サービス、公的年金制度
8	試験返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅰ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 1年

1 授業の内容

骨折、脱臼の症状や分類について復習を行い。担当教員の実務経験を基に外傷の特徴等を解説する

2 到達目標

国家試験に向けて骨折や脱臼の理解を深める

3 授業の方法

配布プリントおよび教科書による講義

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿った教科書の復習をしてくること

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会編「柔道実技学・理論編」南江堂

8 学生へのメッセージ

国家試験に向けて基礎をしっかりと学びましょう

9 教員氏名（ 米田伸一 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 ）

実務経験の詳細（ 整骨院にて施術者として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅰ ）

回数	授業内容
1	脱臼の定義
2	脱臼の分類
3	脱臼の固有症状
4	脱臼の一般外傷症状
5	脱臼の合併症
6	脱臼の整復障害
7	骨折の定義
8	骨折の種類
9	骨折の特徴
10	骨折の一般外傷症状・固有症状
11	骨折の併発症・続発症・後遺症
12	小児骨折
13	高齢者骨折
14	骨癒合に好適な因子・不適な因子
15	脱臼総論・骨折総論 総復習
16	試験返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅱ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 1 年

1 授業の内容

軟部組織損傷の総論を学び、外傷の各論を理解する。

2 到達目標

軟部組織の解剖を学びながら、それらの組織の損傷を学習することで、各損傷の治療法の基礎につなげる知識を身に着ける。

3 授業の方法

教科書を中心に、各資料を参考にしながら、板書を基本とした講義を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 80% 授業態度 20%

5 評価の際の特記事項

授業態度には出席状況も加味する。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

毎回の授業終了後に必ず復讐をし、次回の授業範囲の教科書を事前に読んでくこと。

7 使用教材，教具

柔道整復学・理論編（改訂第7版）

8 学生へのメッセージ

柔道整復師が臨床で接することの多い軟部組織損傷。その基礎を理解することが重要です。そのためには、解剖学と並行して学習することがポイントになります。

また、不明な点は残さずに、質問をして、理解するように心がけてください。

授業の板書は、必ずノートに書き写し、自分独自の参考書を作ることが覚える秘訣になります。

9 教員氏名（ 中野 仁 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校佐世保校 ）

実務経験の詳細（ 柔道整復施術所にて施術管理者としての実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅱ ）

回数	授業内容
1	関節構成組織損傷：靱帯、関節包の損傷（１）
2	関節構成組織損傷：靱帯、関節包の損傷（２）
3	関節構成組織損傷：靱帯、関節包の損傷（３）
4	関節軟骨損傷（１）
5	関節軟骨損傷（２）
6	関節軟骨損傷（３）
7	その他 関節構成組織の損傷（１）
8	その他 関節構成組織の損傷（２）
9	筋の損傷：筋の構造と機能
10	筋損傷の概説、筋損傷の分類（１）
11	筋損傷の分類（２）
12	筋損傷の症状
13	腱の損傷：腱の構造と機能、腱損傷の概説
14	腱損傷の分類
15	前期のまとめ
16	前期試験解説
17	末梢神経の損傷：神経の構造と機能
18	神経損傷の概説、神経損傷の分類
19	末梢神経損傷の症状、治癒過程
20	指導管理
21	外傷予防（１）
22	外傷予防（２）
23	頭部、体幹の軟部組織損傷（１）
24	頭部、体幹の軟部組織損傷（２）
25	頸部の軟部組織損傷（１）
26	頸部の軟部組織損傷（２）
27	頸部の軟部組織損傷（３）
28	胸・背部の軟部組織損傷（１）
29	胸・背部の軟部組織損傷（１）
30	腰部の軟部組織損傷
31	後期のまとめ
32	後期試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅲ ）

学科名 スポーツ柔整 科

学年 2 年

1 授業の内容

上肢骨折について学び、実践力を備えた人材へと成長を促す。また担当教員の実務経験を基に各外傷の特徴等を解説する。

2 到達目標

柔道整復師として上肢骨折の診察、治療が行えるようになる。

3 授業の方法

ホワイトボードによる講義を中心とし、分野毎にまとめた小テスト実施等により理解度の確認を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験にて評価を行う。

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業の復習により長期記憶が身につくため教科書を反復学習し、わからない部分を無くしていくことを推奨する。

7 使用教材，教具

柔道整復学・理論編（改訂第6版）

8 学生へのメッセージ

覚えることが多い科目ですが国家試験の出題頻度も高いので、知識と理解を深めていきましょう。

9 教員氏名（ 梅崎 航 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 ）

実務経験の詳細（ 整骨院にて施術者として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅲ ）

回数	授業内容
1	鎖骨骨折 1
2	鎖骨骨折 2
3	肩甲骨骨折
4	上腕骨骨折（骨頭骨折・解剖頸骨折）
5	上腕骨骨折（外科頸骨折 1）
6	上腕骨骨折（外科頸骨折 2）
7	大結節骨折・小結節骨折
8	上腕骨骨幹部骨折 1
9	上腕骨骨幹部骨折 2
10	上腕骨顆上骨折 1
11	上腕骨顆上骨折 2
12	上腕骨外顆骨折
13	上腕骨内側上顆骨折
14	橈骨近位端部骨折
15	肘頭骨折
16	答案返却および解説
17	橈骨骨幹部骨折
18	尺骨骨幹部骨折
19	モンテギア骨折
20	橈・尺骨両骨骨幹部骨折
21	コーレス骨折
22	スミス骨折
23	バートン骨折・ショーファー骨折
24	舟状骨骨折
25	三角骨骨折・有鉤骨骨折・豆状骨骨折
26	月状骨骨折・大菱形骨骨折・有頭骨骨折
27	中手骨骨折（骨頭部骨折・頸部骨折・骨幹部骨折）・ベネット骨折
28	基節骨骨折
29	中節骨骨折
30	末節骨骨折
31	試験対策
32	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅳ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

1 授業の内容

各損傷の復習を行い，理解力を深める

2 到達目標

各損傷を理解し，損傷症状から重症度を判断できるように身に着けることを目標とする

3 授業の方法

配布プリントおよび教科書による講義

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿った教科書の復習をしてくること。

7 使用教材，教具

柔道整復学・理論編（改訂第7版）

8 学生へのメッセージ

復習を実施し，自己の理解度を確認し，学習方法を確立しましょう

9 教員氏名（ 米田伸一 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 ）

実務経験の詳細（ 柔道制服施術所にて施術者として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅳ ）

回数	授業内容
1	頭部の骨折
2	顔面の骨折
3	頸椎の骨折（上位）
4	頸椎の骨折（下位）
5	胸椎の骨折
6	腰椎の骨折
7	胸部の骨折（肋骨骨折）
8	胸部の骨折（肋軟骨骨折）
9	胸部の骨折（胸骨骨折）
10	顎関節の脱臼
11	顎関節の脱臼
12	頸椎の脱臼
13	胸椎の脱臼
14	腰椎の脱臼
15	総復習
16	試験返却&解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅴ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

1 授業の内容

これまでに学習した脱臼の症状、整復法、固定法の復習と運動学をベースとした基本的な人体の構造、機能、関節運動を学び、後療法の運動療法の実践方法を学ぶ。

2 到達目標

脱臼の症状、整復法、固定法を理解する。

人体の基本的構造を理解し、治療方法のプログラムを組立てることができる。

3 授業の方法

板書を中心とした講義。

4 成績評価方法・基準

定期試験 80% 授業態度 20%

5 評価の際の特記事項

授業態度には出欠席状況も加味する。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

毎回授業の終了後にその日の授業内容を復習すること。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会編「柔道整復学・理論編」（改訂第6版）南江堂

全国柔道整復学校協会編「柔道整復学・実技編」（改訂第2版）南江堂

8 学生へのメッセージ

外傷の各論を理解し、その治療法の基礎を身に着けることで、応急手当につながります。

9 教員氏名（ 中野 仁 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 ）

実務経験の詳細（ 柔道整復施術所にて施術管理者としての実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅴ ）

回数	授業内容
1	鎖骨の脱臼 P225～
2	肩関節の脱臼 P239～
3	肘関節脱臼 P279～
4	手関節部の脱臼 P318～
5	手根中手関節の脱臼 P332～
6	中手指節関節、指節関節の脱臼 P339～
7	股関節の脱臼 P366～
8	膝関節の脱臼 P397～
9	足根部の脱臼 P449～
10	中足指節関節、指節間関節の脱臼 P452～
11	顎関節の脱臼 P163～
12	頸椎の脱臼 P180～
13	胸椎の脱臼 P205～
14	腰椎の脱臼 P215～
15	前期総復習
16	前期試験解説
17	頸椎の骨折 P171～
18	胸椎の骨折 P200～
19	腰椎の骨折 P212～
20	骨折各論① 体幹 総復習
21	骨折各論② 上肢① 総復習
22	骨折各論③ 上肢② 総復習
23	骨折各論④ 下肢① 総復習
24	骨折各論⑤ 下肢② 総復習
25	脱臼各論① 上肢 総復習
26	脱臼各論② 下肢 総復習
27	骨折各論 上肢 四択問題にて総復習
28	骨折各論 下肢 四択問題にて総復習
29	脱臼各論 上肢 四択問題にて総復習
30	脱臼各論 下肢 四択問題にて総復習
31	後期総復習
32	後期試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅵ ）

学科名 スポーツ柔整 科

学年 3 年

1 授業の内容

柔道整復師として業務に必要な外傷一般に対する実践的な知識を深める基礎学習する。

2 到達目標

柔道整復師として外傷一般に対する診察、治療、鑑別についての基礎的知識を習熟する。

3 授業の方法

教科書を用いた授業を行い、担当教員の実務経験を基に実務に必要な技術、知識の基礎的要素の習得を促す。国家試験過去問題集も使用する。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業前の教科書熟読、対応する国家試験問題の予習をしてくる。授業後も復習をしてもらう。

7 使用教材、教具

全国柔道整復学校協会教科書委員会編「柔道整復理論（改定第6版）」

8 学生へのメッセージ

柔道整復師として施術を行うためには、本当に多くの知識が必要であると実感している。教科書はその習得のための基礎的なバイブルであり、国家試験問題はその中でも重要なエッセンスを抽出した重要な臨床の指針と考える。そしてこれらを習得することが臨床力の向上に繋がるという担当教員の実体験も交えて、国家試験にも対応できる授業内容としていく。

9 教員氏名（ 林 慶彰 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 ）

実務経験の詳細（ 整骨院で施術者として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅵ ）

回数	授業内容
1	先天性疾患と後天性疾患の鑑別
2	疾病の素因と体質の鑑別
3	疾病のストレス因子の鑑別
4	組織の萎縮の鑑別
5	充血、うっ血、虚血、出血、浮腫の鑑別
6	肥大、過形成の鑑別
7	滲出性炎の鑑別
8	自己免疫不全の鑑別
9	免疫不全の鑑別
10	腫瘍の局所への影響の鑑別
11	染色体異常の鑑別
12	奇形の鑑別
13	視診を行う際の注意点（体位と姿勢）
14	視診を行う際の注意点（意識状態）
15	打診を行う際の注意点
16	定期試験の返却及び解説
17	生命徴候を診る際の注意点
18	胸部疾患の鑑別方法（気管支喘息、肺気腫）
19	胸部疾患の鑑別方法（心臓弁膜症、先天性心疾患）
20	腹部疾患の鑑別方法（食道炎、消化性潰瘍）
21	四肢所見の鑑別方法（血友病、特発性血小板減少性紫斑病）
22	頭部疾患の鑑別方法（脳梗塞、パーキンソン病）
23	運動の表し方の応用
24	運動器構造知識の応用
25	筋作用知識の応用
26	歩行様態知識の応用
27	運動発達知識の応用
28	疾病予防の段階についての注意点
29	注意すべき院内感染
30	スタンダードプリコーション
31	まとめ
32	定期試験の返却及び解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅶ ）

学科名 スポーツ柔整 科
学年 3 年

1 授業の内容

臨床現場で行われている患者への接し方、所見のとり方、治療の説明、実際の治療の流れなど柔道整復師に必要な不可欠な技術の習得を行い、実践的な知識につける。

2 到達目標

それぞれの項目において、概念、分類、発生機序、症状、合併症、治療法について説明ができ、臨床の場で対処する術を身に付ける。

3 授業の方法

教科書を用いた授業を行い、担当教員の実務経験を基に実務に必要な技術、知識の基礎的要素の習得を促す。国家試験過去問題集も使用する。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業前の教科書熟読、対応する国家試験問題の予習をしてくること。授業後も復習をしてもらう。

7

使用教材、教具

全国柔道整復学校協会教科書委員会編「柔道整復理論（改定第6版）」

8 学生へのメッセージ

柔道整復師として施術を行うためには、本当に多くの知識が必要であると実感している。教科書はその習得のための基礎的なバイブルであり、国家試験問題はその中でも重要なエッセンスを抽出した重要な臨床の指針と考える。そしてこれらを習得することが臨床力の向上に繋がるという担当教員の実体験も交えて、国家試験にも対応できる授業内容としていく。

9 教員氏名（ 林 慶彰 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 ）

実務経験の詳細（ 整骨院で施術者として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅶ ）

回数	授業内容
1	自覚症状と他覚的所見の鑑別
2	疾病の遺伝要因の鑑別
3	疾病の外因の鑑別
4	組織の変性の鑑別
5	血栓、塞栓、梗塞の鑑別
6	再生、化生の鑑別
7	繁殖性炎、肉芽腫性炎の鑑別
8	アレルギーの鑑別
9	腫瘍の触診の鑑別
10	腫瘍の全身への影響の鑑別
11	遺伝病の鑑別
12	視診を行う際の注意点（意義と方法）
13	視診を行う際の注意点（栄養状態）
14	視診を行う際の注意点（異常運動）
15	聴診を行う際の注意点
16	定期試験の返却及び解説
17	反射検査、代表的な臨床症状を診る際の注意点
18	胸部疾患の鑑別方法（狭心症、心筋梗塞）
19	腹部疾患の鑑別方法（急性虫垂炎、腹膜炎）
20	腹部疾患の鑑別方法（肝炎、肝硬変）
21	四肢所見の鑑別方法（鉄欠乏性貧血、再生不良性貧血）
22	四肢所見の鑑別方法（進行性筋ジストロフィー、ALS）
23	運動の基礎力学の応用
24	運動の神経機構知識の応用
25	筋の支配神経知識の応用
26	姿勢態様知識の応用
27	運動学習の応用
28	健康指標の臨床的応用
29	有用な感染症の分類
30	適応となる消毒法の分類
31	まとめ
32	定期試験の返却及び解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅷ ）

学科名 スポーツ柔整 科

学年 2 年

1 授業の内容

外傷の診察方法，治療法，患者の指導管理を学び，臨床現場に活用できる知識を習得する。

2 到達目標

柔道整復師が業務として取り扱う損傷についての基礎を理解することを目標とする

3 授業の方法

配布プリント、教科書を用いた講義形式で行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿った教科書の復習を行うこと。

7 使用教材，教具

柔道整復学・実技編

8 学生へのメッセージ

今後の柔整師としての活動に非常に必要になるので、しっかりと覚えておくこと。

9 教員氏名（ 米田伸一 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 ）

実務経験の詳細（ 柔道整復施術所にて施術者として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅷ ）

回数	授業内容
1	柔道整復師業務・骨折、脱臼、軟損の施術
2	損傷の診察(骨折)
3	損傷の診察(脱臼)
4	損傷の診察(軟損)
5	医科との連携・固定期間の検討
6	後療法
7	肩部の診察をする時の考え方(打撃による損傷)
8	肩部の診察をする時の考え方(その他による損傷)

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅰ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 1年

1 授業の内容

関節構成組織の損傷（脱臼、捻挫など）の総論、診察方法、治療法（整復法、固定法）の総論、頭部、顔面の脱臼、脊椎の脱臼（各論）。また、担当教員の実務経験を基にした外傷の解説も踏まえて授業を実施する。

2 到達目標

関節構成組織損傷についてのメカニズムを理解する。診察法、治療法の基礎を理解する。頭部・顔面、脊椎の脱臼について発生機序、症状、治療法などを理解する

3 授業の方法

柔道整復学（理論編・実技編）などを用いて講義を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験にて評価する。

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿って教科書の予習・復習を行うとより理解を深めやすい。

7 使用教材，教具

柔道整復学（理論編・実技編）、解剖学、配布資料など

8 学生へのメッセージ

関節構成組織損傷は日常、柔道整復施術所において遭遇することは非常に多い。その施術は柔道整復師にはとても重要な職務の一つである。適切な施術を行うための礎として、どの関節構成組織がどの程度損傷しているか、適切な施術にはどのような選択肢があるのかなどを理解することが重要である。

9 教員氏名（ 久野 貴史 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 ）

実務経験の詳細（ 整骨院にて施術者として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅰ ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション, 関節の構造
2	関節の構造、機能
3	関節構成組織①
4	関節構成組織②
5	関節損傷の概説、分類
6	脱臼の分類①
7	脱臼の分類②
8	脱臼の症状
9	脱臼の整復障害
10	診察の注意、手順
11	診察の分類、治療計画
12	施術録
13	予備・復習
14	予備・復習
15	予備・復習
16	試験解説
17	整復法
18	骨折の整復法①
19	骨折の整復法②
20	脱臼の整復法
21	軟損の初期処置
22	固定時の配慮
23	固定後の配慮①
24	固定後の配慮②
25	予備・復習
26	顎関節脱臼①
27	顎関節脱臼②
28	脊椎脱臼①
29	脊椎脱臼②
30	予備・復習
31	予備・復習
32	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅱ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 1年

1 授業の内容

柔道整復師として必要不可欠な柔道整復学を中心に学習する。また担当教員の実務経験を基にした外傷の注意点等も含めて授業を実施する。

2 到達目標

臨床に必要な知識・技能を身につける。

3 授業の方法

ホワイトボードによる講義を中心とし、分野毎にまとめた小テスト実施等により理解度の確認を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験にて評価を行う。

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業の復習により長期記憶に置き換わるため教科書を反復学習し、わからない部分を無くしていくことを推奨する。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会 柔道整復学・理論編（改定第7版）南江堂

8 学生へのメッセージ

覚えることが多い科目ですが国家試験の出題頻度も高いので、知識と理解を深めていきましょう。

9 教員氏名（ 梅崎 航 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 ）

実務経験の詳細（ 整骨院にて施術者として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅱ ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	柔道整復師の沿革
3	業務範囲とその心得
4	人体に加わる力
5	骨の形態と機能
6	骨損傷の概説
7	骨損傷の分類
8	骨折の症状
9	骨折の合併症
10	小児・高齢者骨折の特徴
11	骨折の癒合日数
12	骨折の治癒経過
13	骨折の予後
14	骨折の治癒に影響を与える因子
15	前期の復習
16	試験返却&解説
17	胸・背部の解剖と機能
18	肋骨骨折、肋軟骨骨折
19	胸骨骨折
20	上部胸椎棘突起骨折
21	胸椎椎体骨折
22	胸椎部脱臼骨折
23	胸腰椎移行部脱臼骨折
24	胸・背部の軟部組織損傷
25	胸・背部その他の疾患
26	下位腰椎椎体圧迫骨折
27	チャンス骨折、腰椎椎体破裂骨折
28	腰椎肋骨突起骨折
29	腰椎の脱臼
30	腰部の軟部組織損傷
31	腰部その他の疾患
32	試験返却&解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅲ ）

学科名 スポーツ柔整 科

学年 2 年

1 授業の内容

柔道整復師の資格取得に必要な下肢骨折についての知識を深める。また、担当教員の実務経験を基にした患者への接遇（インフォームドコンセント）、診察方法、施術などの実践力を身に付ける。

2 到達目標

下肢骨折について発生機序、症状（診察内容）、施術方法（整復・固定・後療法など）、予後・注意点などを理解する。

3 授業の方法

柔道整復学（理論編・実技編）などの教科書を用いて行う講義や模範実技による。

4 成績評価方法・基準

定期試験にて評価する

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿った教科書の予習・復習を行うと良い。また、実技に関しては忘れないよう繰り返し復習を行うと良い。

7 使用教材，教具

柔道整復学（理論編・実技編）、包帯固定学など

8 学生へのメッセージ

国家試験受験や柔道整復師として従事するために、重要かつ必要な知識のため、深い理解が必要です。

9 教員氏名（ 久野 貴史 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 ）

実務経験の詳細（ 整骨院にて施術者として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅲ ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	骨盤骨骨折（単独 Fr）
3	骨盤骨骨折（骨盤輪 Fr）
4	大腿骨近位端部骨折（骨頭 Fr）
5	大腿骨近位端部骨折（頸部 Fr）
6	大腿骨近位端部骨折（転子部 Fr）
7	大腿骨骨幹部骨折①
8	大腿骨骨幹部骨折②
9	大腿骨遠位端部骨折（顆上 Fr）
10	大腿骨遠位端部骨折（骨端線離開）
11	大腿骨遠位端部骨折（顆部 Fr）
12	膝蓋骨骨折
13	予備・復習
14	予備・復習
15	予備・復習
16	試験解説
17	下腿骨近位端部骨折（脛骨顆部 Fr）
18	下腿骨近位端部骨折（腓骨頭 Fr）
19	下腿骨骨幹部骨折①
20	下腿骨骨幹部骨折②
21	下腿骨疲労骨折
22	果部骨折①
23	果部骨折②
24	果部骨折③
25	距骨骨折
26	踵骨骨折
27	舟状骨・立方骨・楔状骨骨折
28	中足骨骨折
29	足趾骨折
30	予備・復習
31	予備・復習
32	解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅳ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

1 授業の内容

柔道整復師の資格取得に必要な上肢及び下肢の脱臼についての知識を深める。また担当教員の実務経験を基にした、患者への接遇（インフォームドコンセント）、診察方法、施術などの実践力を身に付ける。

2 到達目標

上肢及び下肢の脱臼について発生機序、症状（診察内容）、施術方法（整復・固定・後療法など）、予後・注意点などを理解する。

3 授業の方法

柔道整復学（理論編・実技編）などの教科書を用いて行う講義や模範実技による。

4 成績評価方法・基準

定期試験にて評価する。

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿った教科書の予習・復習を行うと良い。また、実技に関しては忘れないよう繰り返し復習を行うと良い。

7 使用教材，教具

柔道整復学（理論編・実技編）

8 学生へのメッセージ

国家試験受験や柔道整復師として従事するために、重要かつ必要な知識のため、深い理解が必要です。

9 教員氏名（ 久野 貴史 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 ）

実務経験の詳細（ 整骨院にて施術者として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅳ ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	胸鎖関節脱臼
3	肩鎖関節脱臼①
4	肩鎖関節脱臼②
5	肩関節前方脱臼①
6	肩関節前方脱臼②
7	肩関節後方脱臼
8	肩関節脱臼（その他）
9	肘関節後方脱臼①
10	肘関節後方脱臼②
11	肘関節脱臼（その他）
12	肘内障
13	予備・復習
14	予備・復習
15	予備・復習
16	試験解説
17	手関節脱臼①
18	手関節脱臼②
19	CM、MP 関節脱臼
20	PIP,DIP 関節脱臼
21	予備・復習
22	予備・復習
23	股関節脱臼①
24	股関節脱臼②
25	膝蓋骨脱臼
26	膝関節脱臼
27	足部脱臼
28	足指の脱臼
29	予備・復習
30	予備・復習
31	予備・復習
32	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅴ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

1 授業の内容

脱臼について、総論から各論を全体的に学び、国家試験の受験に向けての学力を身につける。

2 到達目標

認定実技審査や柔道整復師国家試験の受験に必要な知識・技能を深め、臨床の場での確に施術を実践できるような行動力を身につける。

3 授業の方法

担当教員の実務経験を基に、柔道整復学（理論編・実技編）、包帯固定学などを用いての講義や実践に大切な治療方法などの知識を深め、技能を身につける

4 成績評価方法・基準

定期試験にて評価する

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿って教科書の予習・復習を行うと良い。技術は忘却しないよう、練習を重ねると良い。

7 使用教材，教具

柔道整復学（理論編・実技編）、包帯固定学など

8 学生へのメッセージ

脱臼は認定実技試験や国家試験受験及び臨床の場においてとても重要です。より理解を深め、認定実技試験、国家試験、臨床の場に臨んでいただきたい。

9 教員氏名（ 久野 貴史 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 ）

実務経験の詳細（ 整骨院で施術者として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅴ ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	胸鎖関節脱臼
3	肩鎖関節脱臼①
4	肩鎖関節脱臼②
5	肩関節脱臼①
6	肩関節脱臼②
7	肩関節脱臼③
8	肘関節脱臼①
9	肘関節脱臼②
10	肘関節脱臼③
11	肘内障①
12	肘内障②
13	予備・復習
14	予備・復習
15	予備・復習
16	試験解説
17	手関節脱臼①
18	手関節脱臼②
19	CM、MP 関節脱臼
20	PIP,DIP 関節脱臼
21	股関節脱臼①
22	股関節脱臼②
23	膝蓋骨脱臼
24	膝関節脱臼
25	足部脱臼
26	足指の脱臼
27	脱臼総論①
28	脱臼総論②
29	脱臼総論③
30	予備・復習
31	予備・復習
32	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅵ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3 年

1 授業の内容

2年次に学習した上肢、下肢の軟部組織損傷の各論を復習する。

2 到達目標

各損傷への理解を深め、施術につながる治療法の理論を習得する。

3 授業の方法

板書を中心とした授業

4 成績評価方法・基準

定期試験 80% 授業態度 20%

5 評価の際の特記事項

授業態度には出欠席状況を加味する。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

毎回の授業終了後に復習を行うこと。

7 使用教材、教具

全国柔道整復協会編「柔道整復学・理論編」（改訂第6版）南江堂

全国柔道整復協会編「柔道整復学・実技編」（改訂第2版）南

8 学生へのメッセージ

解らない内容は放置せずに、質問をして理解力を身に着けるようにしてください。

8 教員氏名（ 中野 仁 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 ）

実務経験の詳細（ 柔道整復施術にて施術管理者として実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅵ ）

回数	授業内容
1	柔道整復術における触診術と問診
2	肩腱板損傷の触診術と問診
3	上腕二頭筋長頭腱損傷の触診術と問診
4	野球肩（リトルリーガー肩を含む）の触診術と問診
5	肩部の触診術と問診
6	上腕部における神経障害の触診術と問診
7	テニス肘の触診術と問診
8	野球肘の触診術と問診
9	前腕部の腱鞘炎に対する触診術と問診
10	腱交叉症候群の触診術と問診
11	手根骨における障害（外傷、壊死、非外傷性を含む）の触診術と問診
12	手指部における退行性変性の触診術と問診
13	上肢の触診術と問診（復習）
14	上肢の触診術と問診を実技練習 1
15	上肢の触診術と問診を実技練習 2
16	試験解説
17	鼠径部痛症候群の触診術と問診
18	小児の股関節疾患における触診術と問診
19	股関節から大腿部における神経障害の触診術と問診
20	大腿四頭筋肉離れの触診術と問診
21	大腿ハムストリングスの触診術と問診
22	膝半月板損傷の触診術と問診
23	膝側副靱帯損傷の触診術と問診
24	膝前十字靱帯損傷の触診術と問診
25	股関節から大腿部における触診術と問診
26	下腿部から足部における神経障害の触診術と問診
27	下腿肉離れの触診術と問診
28	足関節捻挫の触診術と問診
29	下肢の触診術と問診（復習）
30	下肢の触診術と問診を実技練習 1
31	下肢の触診術と問診を実技練習 2
32	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅶ ）

学科名 スポーツ柔整科
学年 3 年

1 授業の内容

担当教員の実務経験を基に、臨床現場においてより素早くより正確に疾患を発見できる能力を身に付けさせ、さらなる知識や技能の習得をはかる。

2 到達目標

人体解剖学に基づく名称や触診部位の説明ができるようになる。また人体構造とその機能に関する知識の習得をはかる。

3 授業の方法

ホワイトボードによる講義を中心とし、分野毎にまとめた小テスト実施等により理解度の確認を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験にて評価を行う。

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業の復習により長期記憶に置き換わるため教科書を反復学習し、わからない部分を無くしていくことを推奨する。

7 使用教材，教具

社団法人全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学 理論編」南江堂

8 学生へのメッセージ

一度学んでいる分野だとは思いますが、国家試験、また卒後の臨床にも使える為にも、より深い理解が出来るよう取り組んでください。

9 教員氏名（ 梅崎 航 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校佐世保校 ）

実務経験の詳細（ 整骨院にて施術者として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅶ ）

回数	授業内容
1	骨折の分類 P24～
2	骨折の症状 P31～
3	骨折の合併症 P35～
4	小児骨折、高齢者 P40～
5	骨折の癒合日数 P43～
6	骨折の治癒経過 P44～
7	骨折の予後 P46
8	骨折の治癒に影響を与える因子 P47
9	鎖骨骨折 P221～
10	肩甲骨骨折 P228～
11	上腕骨近位部の骨折 P233～
12	上腕骨骨幹部の骨折 P256～
13	上腕骨遠位部の骨折 P266～
14	前腕骨近位部の骨折 P274～
15	前腕骨骨幹部の骨折 P288～
16	試験返却および解説
17	前腕骨遠位端部の骨折 P313～
18	手根骨部の骨折 P313～
19	中手骨部の骨折 P328～
20	指骨の骨折 P334～
21	骨盤骨骨折 P351～
22	大腿骨近位部の骨折 P356～
23	大腿骨骨幹部の骨折 P377～
24	大腿骨遠位端部の骨折 P388～
25	下腿近位端部の骨折 P392～
26	下腿骨幹部の骨折 P411～
27	下腿遠位部の骨折 P426～ 足根骨骨折 距骨骨折, 踵骨骨折② P432～P436
28	足根骨の骨折（距骨・踵骨）P442～
29	足根骨の骨折 P444～
30	中足骨の骨折・趾骨の骨折 P447～
31	総復習
32	試験返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅷ ）

学科名 スポーツ柔整 科

学年 3 年

1 授業の内容

柔道整復術の適応を様々な角度から診ることで適応疾患と適応外疾患の対応を学ぶ。
また、担当教員の実務経験を基にした外傷の注意点等も含めた授業を行う。

2 到達目標

柔道整復術の適応疾患と適応外疾患を見極めるようになる。また、適応外の対応が出来るようになる。

3 授業の方法

講義形式を中心とする。授業時に配布する資料を参考に使用する。

4 成績評価方法・基準

定期試験にて評価を行う。

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業の復習により長期記憶に置き換わるため教科書を反復学習し、わからない部分を無くしていくことを推奨する。

7 使用教材、教具

全国柔道整復学校協会監修「施術の適応と医用画像の理解」南江堂

8 学生へのメッセージ

国家試験のみならず卒業後の臨床に使えるために、より深い理解が出来るよう取り組んでください。

9 教員氏名（ 梅崎 航 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校佐世保校 ）

実務経験の詳細（ 整骨院にて施術者として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅷ ）

回数	授業内容
1	柔道整復術の適否を考える
2	損傷に類似した症状を示す疾患
3	血流障害を伴う損傷
4	末梢神経損傷を伴う損傷
5	脱臼骨折
6	外出血を伴う損傷 骨折
7	外出血を伴う損傷 脱臼
8	病的骨折および脱臼
9	意識障害を伴う損傷
10	脊髄症状のある損傷呼吸運動障害を伴う損傷
11	内臓損傷の合併が疑われる損傷
12	高エネルギー外傷 骨折
13	高エネルギー外傷 脱臼
14	柔道整復術範囲外の対応
15	授業のまとめと復習
16	試験返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅸ ）

学科名 スポーツ柔整 科

学年 2 年

1 授業の内容

実技室を施術所と想定して、物理療法の実技の授業を実施する。また担当教員の実務経験を基に各機器の効果的な使用方法も解説する。

2 到達目標

物理療法の機器の効果を理解し安全に使用することができる。

3 授業の方法

P C プロジェクタを利用したパワーポイントによる講義。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

前回の授業内容を復習し、これまでの知識を活かして授業に臨む。

7 使用教材、教具

柔道整復学・理論編 改訂版第7版

8 学生へのメッセージ

教員の実体験も交えて授業行います。臨床現場において、物理療法機器は使用頻度の高いものなので、内容を理解し、安全で効果の高い使用方法を学びましょう。

9 教員氏名（ 米田伸一 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 ）

実務経験の詳細（ 柔道整復施術所にて施術者として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅸ ）

回数	授業内容
1	物理療法の分類
2	低周波電気刺激療法
3	中周波電流療法
4	温熱療法
5	超音波療法
6	光線療法
7	牽引療法
8	総復習

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅰ ）

学科名 スポーツ柔整 科

学年 1 年

1 授業の内容

柔道整復師として必要な包帯の基礎、固定材料を用いた固定方法のやり方を学習する。
また、担当教員の実務経験を基にした固定材料の作成、部位に応じた固定の実践を行う。

2 到達目標

固定法の基礎知識を身に付け、必要に応じて固定材用の作成、それを用いた固定法を実施できるようになる。

3 授業の方法

患者役、施術者役に分かれてお互いの身体に包帯を行う。
固定材料（硬性・軟性）の作り方を学び、固定具を使用して包帯を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験にて評価を行う。

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

実技は積み重ねの練習で身に付くものであるため、積極的に取り組み技能の習得を心掛けましょう。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学学校協会編「包帯固定学」

8 学生へのメッセージ

包帯固定学は柔道整復師の基本であり、習得することによりテーピングなどの応用にも繋がります。臨床でも必要な技術のため実技時間を大切にしていきましょう。

9 教員氏名（ 梅崎 航 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 ）

実務経験の詳細（ 整骨院にて施術者として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名（ 柔道整復実技Ⅰ ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	包帯の巻き方と注意事項
3	基本包帯法 環行帯・螺旋帯・蛇行帯
4	基本包帯法 手関節・足関節
5	基本包帯法 肘関節・膝関節
6	基本包帯法 肩関節
7	基本包帯法 前腕部・下腿部
8	基本包帯法 手～肘包帯
9	基本包帯法 肘～肩包帯
10	基本包帯法 足～膝包帯
11	冠名包帯法 デゾー包帯
12	冠名包帯法 ヴェルポー包帯・ジュール包帯
13	さらし包帯法
14	クラーメルシーネの作成
15	前期復習
16	定期試験&解説
17	肘関節後方脱臼の固定 1
18	肘関節後方脱臼の固定 2
19	ヴェルポー、ジュール、デゾー包帯固定
20	肩関節後方脱臼の固定 1
21	肩関節前方脱臼の固定 2
22	肩鎖関節上方脱臼の固定 1
23	肩鎖関節上方脱臼の固定 2
24	肘関節後方脱臼固定復習・肩関節前方脱臼固定復習
25	鎖骨骨折の固定 1
26	鎖骨骨折の固定 2
27	鎖骨骨折固定復習
28	コーレス骨折の固定 1
29	コーレス骨折の固定 2
30	コーレス骨折固定復習
31	後期復習
32	定期試験&解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅱ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 2 年

1 授業の内容

軟部組織損傷について、上肢、下肢の各論を学習する。

2 到達目標

損傷の総論を基礎に、軟部組織損傷の各論を理解し、それらの施術方法を学ぶ。

3 授業の方法

各損傷の理論を板書により進め、その治療法の基礎を実技を交えて学習する。

4 成績評価方法

定期試験 80% 授業態度 20%

5 評価の際の特記事項

授業態度には出欠席状況も加味する。

6 授業時間外学習（予習・復習等）

毎回の授業終了後、その日のうちに復習すること。

7 使用教材、教具

全国柔道整復学校協会編「柔道整復学・理論編」（改訂第7版）南江堂

全国柔道整復学校協会編「柔道整復学・実技編」（改訂第2版）南江堂

8 学生へのメッセージ

臨床の場で遭遇しやすい軟部組織損傷の基礎を学び現場へと活かして欲しいです。

担当教員が実際に現場で経験した症例を交えているので、将来の臨床の場で対応できる知識を習得して下さい。

9 教員氏名（ 中野 仁 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 ）

実務経験の詳細（ 施術所にて施術管理者として実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業

科目名（ 柔道整復実技Ⅱ ）

回数	授業内容
1	上肢の軟部組織損傷：肩関節部の軟部組織損傷（１）P350～P361
2	肩関節部の軟部組織損傷（２）P350～P361
3	肩関節部の軟部組織損傷（３）P350～P361
4	肘関節部の軟部組織損傷（１）P361～P365
5	肘関節部の軟部組織損傷（２）P361～P365
6	前腕部の軟部組織損傷（１）P365～369
7	前腕部の軟部組織損傷（２）P365～369
8	前腕部の軟部組織損傷（３）P365～369
9	手関節部の軟部組織損傷（１）P370～P373
10	手関節部の軟部組織損傷（２）P370～P373
11	手部、指部の軟部組織損傷（１）P373～379
12	手部、指部の軟部組織損傷（２）P373～379
13	手部、指部の軟部組織損傷（３）P373～379
14	前期のまとめ１
15	前期のまとめ２
16	定期試験解説
17	下肢の軟部組織損傷：股関節の軟部組織損傷（１）P380～P383
18	股関節の軟部組織損傷（２）P380～P383
19	大腿部の軟部組織損傷（１）P383～P386
20	大腿部の軟部組織損傷（２）P383～P386
21	膝関節の軟部組織損傷（１）P386～P394
22	膝関節の軟部組織損傷（２）P386～P394
23	膝関節の軟部組織損傷（３）P386～P394
24	下腿部の軟部組織損傷（１）P394～396
25	下腿部の軟部組織損傷（２）P394～396
26	足関節部の軟部組織損傷（１）P396～P406
27	足関節部の軟部組織損傷（２）P396～P406
28	足関節部の軟部組織損傷（３）P396～P406
29	後期のまとめ１
30	後期のまとめ２
31	後期のまとめ３
32	定期試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅲ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3 年

1 授業の内容

軟部組織損傷の各論を復習し、理解力を深める。

2 到達目標

柔道整復師が臨床で多く接する軟部組織損傷の各損傷を学びなおし、さらに理解できるようにする。

3 授業の方法

板書を中心とした授業を行い、実技を交えてそれらの実際を確認する。

4 成績評価方法・基準

定期試験 80% 授業態度 20%

5 評価の際の特記事項

授業態度には出欠席状況も加味する。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

毎回の授業終了後に必ず復習すること。

7 使用教材、教具

全国柔道整復協会編「柔道整復学・実技編」（改訂第2版）南江堂

全国柔道整復協会編「柔道整復学・理論編」（改訂第6版）南江堂

8 学生へのメッセージ

不明な点は取り残さないようにし、質問をして理解をするようにしてください。

8 教員氏名（ 中野 仁 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校佐世保校 ）

実務経験の詳細（ 柔道整復施術所にて施術管理者として実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業

科目名（ 柔道整復実技Ⅲ ）

回数	授業内容
1	上肢の軟部組織損傷：肩関節部の軟部組織損傷（１）
2	肩関節部の軟部組織損傷（２）
3	肩関節部の軟部組織損傷（３）
4	肘関節部の軟部組織損傷（１）
5	肘関節部の軟部組織損傷（２）
6	前腕部の軟部組織損傷（１）
7	前腕部の軟部組織損傷（２）
8	前腕部の軟部組織損傷（３）
9	手関節部の軟部組織損傷（１）
10	手関節部の軟部組織損傷（２）
11	手部、指部の軟部組織損傷（１）
12	手部、指部の軟部組織損傷（２）
13	手部、指部の軟部組織損傷（３）
14	前期のまとめ１
15	前期のまとめ２
16	定期試験解説
17	下肢の軟部組織損傷：股関節の軟部組織損傷（１）
18	股関節の軟部組織損傷（２）
19	大腿部の軟部組織損傷（１）
20	大腿部の軟部組織損傷（２）
21	膝関節の軟部組織損傷（１）
22	膝関節の軟部組織損傷（２）
23	膝関節の軟部組織損傷（３）
24	下腿部の軟部組織損傷（１）
25	下腿部の軟部組織損傷（２）
26	足関節部の軟部組織損傷（１）
27	足関節部の軟部組織損傷（２）
28	足関節部の軟部組織損傷（３）
29	後期のまとめ１
30	後期のまとめ２
31	後期のまとめ３
32	定期試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅳ ）

学科名 スポーツ柔整 科

学年 3 年

1. 授業の内容

臨床現場においてより素早くより正確に疾患を発見できる能力を身に付けるために、担当教員の実務経験を基に様々な症例を比較しながら、人体構造や人体の仕組みについて解剖学や生理学を含めた学習を行う。

2. 到達目標

人体解剖学に基づく名称や触診部位の説明ができるようになる。また人体構造とその機能に関する知識の習得をはかる。

3. 授業の方法

ホワイトボードによる講義を中心とし、分野毎にまとめた小テスト実施等により理解度の確認を行う。

4. 成績評価方法・基準

定期試験にて評価を行う。

5. 評価の際の特記事項

特になし。

6. 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業の復習により長期記憶に置き換わるため教科書を反復学習し、わからない部分を無くしていくことを推奨する。

7. 使用教材

社団法人全国柔道整復学校協会監修：解剖学 改訂第2版，配布プリント

8. 学生へのメッセージ

一度学んでいる分野だとは思いますが、国家試験、また卒後の臨床にも使える為にも、より深い理解が出来るよう取り組んでください。

9. 教員名 （ 梅崎 航 ）

所属 （ ころ医療福祉専門学校佐世保校 ）

実務経験の詳細 （ 整骨院にて施術者として勤務経験あり ）

10. 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅶ ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	骨の形態と機能①体幹
3	骨の形態と機能②上肢
4	骨の形態と機能③下肢
5	筋の構造と機能①体幹
6	筋の構造と機能②上肢
7	筋の構造と機能③下肢
8	血管の構造と機能①頭部・体幹
9	血管の構造と機能②上肢
10	血管の構造と機能③下肢
11	神経の構造と機能①頭部・体幹
12	神経の構造と機能②上肢
13	神経の構造と機能③下肢
14	痛みの種類とメカニズム
15	前期まとめ
16	答案返却及びその解説授業
17	上肢骨折での触診部位・神経疾患①肩部～肘部
18	上肢骨折での触診部位・神経疾患②前腕部～指部
19	上肢脱臼での触診部位・神経疾患①肩関節・肘関節
20	上肢脱臼での触診部位・神経疾患②手関節・指関節
21	上肢軟部組織損傷での触診部位・神経疾患①肩部～肘部
22	上肢軟部組織損傷での触診部位・神経疾患②前腕部～指部
23	下肢骨折での触診部位・神経疾患①骨盤部～膝部
24	下肢骨折での触診部位・神経疾患②下腿部～趾部
25	下肢脱臼での触診部位・神経疾患①股関節・膝関節
26	下肢脱臼での触診部位・神経疾患②足関節・趾関節
27	下肢軟部組織損傷での触診部位・神経疾患①骨盤部～膝部
28	下肢軟部組織損傷での触診部位・神経疾患②下腿部～趾部
29	頭部・顔面部損傷での触診部位・神経疾患①第Ⅻ脳神経の機能
30	頭部・顔面部損傷での触診部位・神経疾患②第Ⅻ脳神経の圧痛点
31	後期まとめ
32	答案返却及びその解説授業

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅴ ）

学科名 スポーツ柔整科
学年 3年

1 授業の内容

主に認定実技審査内容の診察・整復、固定の内容について理解を深めるため、担当教員の実務経験を基に、実技形式で行う。

2 到達目標

主に認定実技審査の内容に対して理解を深め、技能を高め、国家試験合格に必要な知識を得る。

3 授業の方法

実技編・理論編の教科書を用いて知識を習得し、担当教員の実務経験を基にした実践において必要な技術の向上を促す。また、模擬的に技能の習得の確認なども行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験にて評価を行う

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

予習・復習は非常に大切で、特に技能向上のためには繰り返しの自主的な練習は必要不可欠である。

7 使用教材，教具

柔道整復学（理論編・実技編）、包帯固定学など

8 学生へのメッセージ

認定実技審査への合格、国家試験の合格のためには、多くの知識・技能が必要です。より高い技術力を得られるように修練し、深い知識が得られるように学習しましょう。

9 教員氏名（ 久野 貴史 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校佐世保校 ）

実務経験の詳細（ 整骨院で施術者として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名（ 柔道整復実技Ⅴ ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	足関節テーピング（スターアップ）
3	足関節テーピング（ホースシュー）
4	足関節テーピング（フィギアエイト）
5	足関節テーピング（ヒールロック）
6	膝関節テーピング（X サポート）①
7	膝関節テーピング（X サポート）②
8	膝関節側副靱帯損傷（診察・検査）①
9	膝関節側副靱帯損傷（診察・検査）②
10	膝関節十字靱帯損傷（診察・検査）①
11	膝関節十字靱帯損傷（診察・検査）②
12	膝関節半月損傷（診察・検査）①
13	膝関節半月損傷（診察・検査）②
14	予備・復習
15	予備・復習
16	試験解説
17	肩鎖関節上方脱臼（診察・整復）
18	肩関節前方脱臼（診察・整復）
19	肘関節後方脱臼（診察・整復）
20	肘内障（診察・整復）
21	認定実技練習①
22	認定実技練習②
23	認定実技練習③
24	必修問題対策①
25	必修問題対策②
26	必修問題対策③
27	必修問題対策④
28	必修問題対策⑤
29	必修問題対策⑥
30	必修問題対策⑦
31	予備・復習
32	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅵ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3 年

1 授業の内容

これまでに習得した柔道整復術の整復、固定を患者と施術者に分かれて実技を繰り返して行う。

2 到達目標

骨折、脱臼、軟部組織損傷に対する柔道整復術の整復および固定を早く、丁寧に行うことができるようになる。

3 授業の方法

担当教員の実務経験を活かし、現場で必要な固定術の技術習得を促す。

固定材料（軟性、硬性）を用い整復と固定を授業毎にテーマを決めて行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業で配布している資料を基に自主練習の復習を行うこと。実技は簡単に身につくものではないので繰り返し練習し定着させる必要がある。

7 使用教材、教具

全国柔道整復協会編「柔道整復学・実技編」（改訂第2版）南江堂

全国柔道整復協会編「柔道整復学・理論編」（改訂第6版）南江堂

8 学生へのメッセージ

実技は繰り返して練習しなければ身に付きません。自主的に練習し、不明な点は必ず質問して、理解するようにしてください。

8 教員氏名（ 中野 仁 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校佐世保校 ）

実務経験の詳細（ 柔道整復施術所にて施術管理者として実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業

科目名（ 柔道整復実技Ⅵ ）

回数	授業内容
1	鎖骨骨折の診察、整復
2	上腕骨外科頸骨折の診察、整復
3	コーレス骨折の診察、整復
4	肩鎖関節上方脱臼の診察、整復
5	肩関節前方烏口下脱臼の診察、整復
6	肘関節後方脱臼の診察、整復
7	肘内障の診察、整復
8	肩腱板損傷の診察、検査法
9	上腕二頭筋長頭腱損傷の診察、検査法
10	ハムストリングス損傷、下腿三頭筋損傷の診察、検査法
11	大腿四頭筋打撲の診察、検査法
12	膝関節側副靱帯損傷の診察、検査法
13	膝関節十字靱帯損傷の診察、検査法
14	膝関節半月板損傷の診察、検査法
15	足関節外側靱帯損傷の診察、検査法
16	試験解説
17	骨折の診察、整復全般 1
18	脱臼の整復全般 1
19	軟部組織損傷の診察全般 1
20	骨折の整復全般 2
21	脱臼の整復全般 2
22	軟部組織損傷の診察全般 2
23	実技演習 1
24	実技演習 2
25	実技演習 3
26	実技演習 4
27	実技演習 5
28	実技演習 6
29	実技演習 7
30	実技演習 8
31	実技演習 9
32	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅶ ）

学科名 柔道整復科 科

学年 3 年

1 授業の内容

主に全身の脱臼の内容を扱う。認定実技審査や国家試験、資格取得後の施術方法について、担当教員の実務経験を基に、理解を深め、技能を高める。

2 到達目標

脱臼という関節構成組織損傷のおける、診察・施術（整復・固定・後療法）、注意点などについて理解を深め、認定実技審査、国家試験に臨める知識・技能を身につける。

3 授業の方法

脱臼について、患者の来院から診察・徒手検査、整復、固定、後療法などの一連の流れを実技形式で実施する。

4 成績評価方法・基準

定期試験にて評価する。併せて、認定実技審査の合格が必須となる。

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

技能を身につけるためには時間を要します、自主学習、練習繰り返すことが大切です。

7 使用教材，教具

柔道整復学（理論編・実技編）、包帯固定学

8 学生へのメッセージ

認定実技審査は国家試験を受験するためには重要な試験です。しっかりと自主練習を行いましょう。また、国家試験対策として、しっかり理解を深めましょう。

9 教員氏名（ 久野 貴史 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 ）

実務経験の詳細（ 整骨院で施術者として勤務経験あり）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名（ 柔道整復実技Ⅶ ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	肩鎖関節上方脱臼（診察）
3	肩鎖関節上方脱臼（整復）
4	肩鎖関節上方脱臼（固定）
5	肩関節前方脱臼（診察）
6	肩関節前方脱臼（整復）
7	肩関節前方脱臼（固定）
8	肘関節後方脱臼（診察）
9	肘関節後方脱臼（整復）
10	肘関節後方脱臼（固定）
11	肘内障（診察）
12	肘内障（整復）
13	肘内障（固定）
14	予備・復習
15	予備・復習
16	試験解説
17	PIP 関節背側脱臼
18	第 1MP 関節背側脱臼
19	股関節後方脱臼
20	膝蓋骨側方脱臼
21	足趾の脱臼
22	顎関節脱臼
23	肩鎖関節脱臼復習①
24	肩鎖関節脱臼復習②
25	肩関節脱臼復習①
26	肩関節脱臼復習②
27	肘関節後方脱臼復習①
28	肘関節後方脱臼復習②
29	肘内障復習①
30	肘内障復習②
31	予備・復習
32	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅷ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

1 授業の内容

主に認定実技審査内容の診察・整復・固定の内容について、知識や技能を深めるため、担当教員の実務経験を基に実技形式で行う。

2 到達目標

主に認定実技審査の内容に対して知識や技能を深め、国家試験合格に必要な知識を習得する。

3 授業の方法

実技編・理論編の教科書を用い、知識を習得し、実践において技術の向上を図る。
模擬的に技能の習得の確認なども行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験にて評価を行う。

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

予習・復習は非常に大切で、特に技能向上のためには繰り返しの自主的な練習は必要不可欠である。

7 使用教材、教具

全国柔道整復協会編「柔道整復学・実技編」（改訂第2版）南江堂
全国柔道整復協会編「柔道整復学・理論編」（改訂第6版）南江堂

8 学生へのメッセージ

認定実技審査への合格、国家試験の合格に向けて、知識・技能の向上に努めましょう。

9 教員氏名（ 梅崎 航 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 ）

実務経験の詳細（ 整骨院にて施術者として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名（ 柔道整復実技Ⅵ ）

回数	授業内容
1	鎖骨骨折整復法①
2	鎖骨骨折整復法②
3	コーレス骨折整復法①
4	コーレス骨折整復法②
5	肩腱板損傷診察法①
6	肩腱板損傷診察法②
7	上腕骨外科頸骨折整復法①
8	上腕骨外科頸骨折整復法②
9	上腕二頭筋長頭腱損傷診察法①
10	上腕二頭筋長頭腱損傷診察法②
11	ハムストリングス損傷診察法①
12	ハムストリングス損傷診察法②
13	大腿四頭筋打撲診察診察法①
14	大腿四頭筋打撲診察診察法②
15	総復習
16	試験返却および解説
17	下腿三頭筋損傷診察法①
18	下腿三頭筋損傷診察法②
19	足関節外側靱帯損傷診察法①
20	足関節外側靱帯損傷診察法②
21	足関節外側靱帯損傷固定法①（局所副子固定）
22	足関節外側靱帯損傷固定法②（局所副子固定）
23	本番形式での実技練習 1
24	本番形式での実技練習 2
25	本番形式での実技練習 3
26	本番形式での実技練習 4
27	本番形式での実技練習 5
28	本番形式での実技練習 6
29	本番形式での実技練習 7
30	本番形式での実技練習 8
31	総復習
32	試験返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅸ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3 年

1 授業の内容

柔道整復師として必要な整復固定の知識、技能について学習する。また、担当教員の実務経験を基に外傷の説明や整復固定の注意点等の説明も行う。

2 到達目標

臨床に必要な知識・技能を身につける。

3 授業の方法

教科書を中心とした講義や実技。及び各項目終了後に課題を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 80%、授業態度 20%

5 評価の際の特記事項

質問への返答、課題に対する理解度。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

事前に教科書の予習、直後の復習により知識が定着する。さらに教科書以外の参考書で学習する事によりさらに理解が深まる。

7 使用教材，教具

社団法人全国柔道整復師協会 柔道整復学・理論編（改定第6版）南江堂

8 学生へのメッセージ

整復固定は柔道整復師の業務を行うにあたりとても大事な所なので、しっかり勉強して下さい。

9 教員氏名（ 宮田 哲弘 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 ）

実務経験の詳細（ 整骨院にて施術者として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名（柔道整復実技Ⅸ）

回数	授業内容
1	鎖骨定型的骨折（触診・鑑別・整復・固定）
2	上腕骨外科頸骨折（触診・鑑別・整復・固定）
3	コーレス骨折（触診・鑑別・整復・固定）
4	肩鎖関節上方脱臼（触診・鑑別・整復・固定）
5	肩関節前方脱臼（触診・鑑別・整復・固定）
6	肘関節後方脱臼（触診・鑑別・整復・固定）
7	肘内障（触診・鑑別・整復・固定）
8	肩腱板損傷（触診・鑑別・固定）
9	上腕二頭筋長頭腱損傷（触診・鑑別・固定）
10	ハムストリングス損傷・大腿四頭筋打撲（触診・鑑別・固定）
11	膝関節側副靱帯損傷（触診・鑑別・固定）
12	膝関節十字靱帯損傷（触診・鑑別・固定）
13	膝関節半月板損傷（触診・鑑別・固定）
14	下腿三頭筋損傷（触診・鑑別・固定）
15	足関節外側靱帯損傷（触診・鑑別・固定）
16	後期試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床実習Ⅰ ）

学科名 スポーツ柔整 科

学年 1 年

1 授業の内容

柔道整復師となるための臨床実習を迎えるにあたり、外傷の診断に必要な知識、技能を得るための触診や徒手検査法についての理解、技術習得を目的とする。
また、担当教員の実務経験を基にした、基本的な施術、テーピング固定の練習を行い、接骨院の現場での実践力を養う。

2 到達目標

体表解剖学を理解したうえで、触診・徒手検査法を習得し、身体の状態、疾患（外傷）を特定することができる能力を高める。
また、基本的な施術の種類、テーピング等の能力を高める。

3 授業の方法

解剖学、柔道整復学などの教科書や配布資料を基にして授業を行う。
また、患者役や施術者役に分かれ、身体に各種徒手検査・施術・テーピング等を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験にて評価する。

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

知識は教科書、配布資料の内容を予習・復習する。
実技は練習重ねることで、理論的部分も合わせて技能を高める。

7 使用教材，教具

柔道整復学（理論編）、柔道整復学（実技編）、解剖学、包帯固定法及び配布資料。

8 学生へのメッセージ

接骨院・整骨院に従事するために、施術・テーピング・検査法はいずれも必要不可欠で大切なものです。全時間の授業を出席するつもりで臨んでください。

9 教員氏名（ 久野 貴史 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校佐世保校 ）

実務経験の詳細（ 柔道整復施術所にて施術者として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名（ 臨床実習Ⅰ ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	解剖学的用語①
3	解剖学的用語②
4	人体の区分
5	人体の再区分
6	骨の形状の用語
7	骨格系の体表解剖
8	筋系の体表解剖
9	脈管系の体表解剖
10	神経系の体表解剖
11	予備・復習
12	試験解説
13	手技療法①
14	手技療法②
15	運動療法①
16	運動療法②
17	テーピングの基礎
18	テーピングの巻き方
19	足関節のテーピング①
20	足関節のテーピング②
21	足関節のテーピング③
22	予備・復習
23	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床実習Ⅱ ）

学科名 スポーツ柔整 科

学年 2 年

1 授業の内容

整骨院での実習を行う。

2 到達目標

担当教員の実務経験を基にした実習を通し、柔道整復師の仕事内容、患者への対応方法などを学び、柔道整復師としての心構えを身に付けさせる。

3 授業の方法

臨床施設での整骨院業務補助

4 成績評価方法・基準

実技試験 100%

5 評価の際の特記事項

実習先での実技評価表に基づいた採点になります。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

実習先での指導はメモを取り、自主学習にて復習を行うこと。

7 使用教材，教具

特になし。

8 学生へのメッセージ

外部実習として学校外での研修になります。

他の模範となるような姿勢で臨んでください。

9 教員氏名（ 久野 貴史 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 ）

実務経験の詳細（ 整骨院にて施術者として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名 (臨床実習Ⅱ)

回数	授業内容
1	外部実習 1
2	外部実習 2
3	外部実習 3
4	外部実習 4
5	外部実習 5
6	外部実習 6
7	外部実習 7
8	外部実習 8
9	外部実習 9
10	外部実習 10
11	外部実習 11
12	外部実習 12
13	外部実習 13
14	外部実習 14
15	外部実習 15
16	外部実習 16
17	外部実習 17
18	外部実習 18
19	外部実習 19
20	外部実習 20
21	外部実習 21
22	外部実習 22
23	外部実習 23

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床実習Ⅲ ）

学科名 スポーツ柔整 科

学年 2 年

1 授業の内容

整骨院での実習を行う。

2 到達目標

担当教員の実務経験を基にした実習を通し、柔道整復師の仕事内容、患者への対応方法などを学び、柔道整復師としての心構えを身に付けさせる。

3 授業の方法

臨床施設での整骨院業務補助

4 成績評価方法・基準

実技試験 100%

5 評価の際の特記事項

実習先での実技評価表に基づいた採点になります。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

実習先での指導はメモを取り、自主学習にて復習を行うこと。

7 使用教材，教具

特になし。

8 学生へのメッセージ

外部実習として学校外での研修になります。

他の模範となるような姿勢で臨んでください。

9 教員氏名（ 久野 貴史 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 ）

実務経験の詳細（ 整骨院にて施術者として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名 (臨床実習Ⅲ)

回数	授業内容
1	外部実習 1
2	外部実習 2
3	外部実習 3
4	外部実習 4
5	外部実習 5
6	外部実習 6
7	外部実習 7
8	外部実習 8
9	外部実習 9
10	外部実習 10
11	外部実習 11
12	外部実習 12
13	外部実習 13
14	外部実習 14
15	外部実習 15
16	外部実習 16
17	外部実習 17
18	外部実習 18
19	外部実習 19
20	外部実習 20
21	外部実習 21
22	外部実習 22
23	外部実習 23

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床実習Ⅳ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3 年

1 授業の内容

実技も交えながら、臨床に必要な骨折の整復法、固定法を学ぶ。また、担当教員の実務経験を基に各外傷の特徴も説明していく。

2 到達目標

骨折に対する整復および固定を臨床現場でも素早く丁寧に行える技術を身につける。

3 授業の方法

ホワイトボードによる講義と実技。

4 成績評価方法・基準

レポートにて評価を行う。

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業の復習により長期記憶に置き換わるため教科書を反復学習し、わからない部分を無くしていくことを推奨する。

7 使用教材，教具

社団法人全国柔道整復学校協会監修：柔道整復学 実技編（改訂第2版）

8 学生へのメッセージ

臨床に必要な骨折の整復法、固定法を学び、国家試験に向けて必要な知識や技能を身につけていきましょう。

9 教員氏名（ 梅崎 航 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校佐世保校 ）

実務経験の詳細（ 整骨院にて施術者として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名（ 臨床実習Ⅳ ）

回数	授業内容
1	鎖骨骨折の診察・整復法・固定法 P62～
2	鎖骨骨折の固定法 P69～
3	コーレス骨折の整復法 P152～ 上腕骨骨幹部骨折の整復法・固定法 P97～
4	コーレス骨折の固定法 P157～
5	上腕骨外科頸外転型骨折の診察法 P75～
6	上腕骨外科頸外転型骨折の整復法 P78～
7	中手骨頸部骨折の固定法 P182～
8	下腿骨骨幹部骨折の固定法 P310～
9	肋骨骨折の固定法 P418～
10	上腕骨顆上骨折の診察・整復法 P106～
11	上腕骨外顆骨折の診察・整復法 P122～
12	上腕骨内側上顆骨折の診察・整復法 P128～
13	肘頭骨折の診察・整復法 P137～
14	モンテギア骨折の診察・整復法 P142～
15	橈・尺両骨骨幹部骨折の診察・整復・固定法 P147～
16	スミス骨折の診察・整復・固定法 P164～
17	舟状骨骨折の診察・整復法・固定法 P169～
18	ベネット骨折の診察・整復法・固定法 P172～
19	基節骨骨折の診察・整復法・固定法 P198～
20	中節骨骨折の診察・整復法・固定法 P205～
21	大腿骨頸部骨折の診察・整復法・固定法 P290～
22	果部骨折の診察・整復法・固定法 P314～
23	中足骨骨折の診察・整復法・固定法 P328～